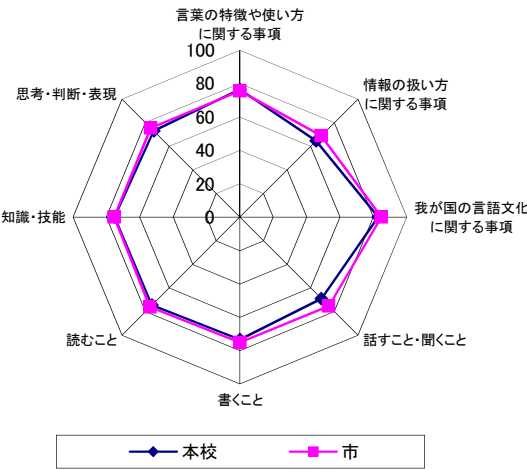


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.5	75.6	66.5
	情報の扱い方にに関する事項	64.6	69.0	62.0
	我が国の言語文化にに関する事項	82.9	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	69.0	75.3	69.4
	書くこと	73.4	75.2	65.1
	読むこと	74.5	76.2	68.8
観点別	知識・技能	75.1	75.3	66.7
	思考・判断・表現	73.0	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

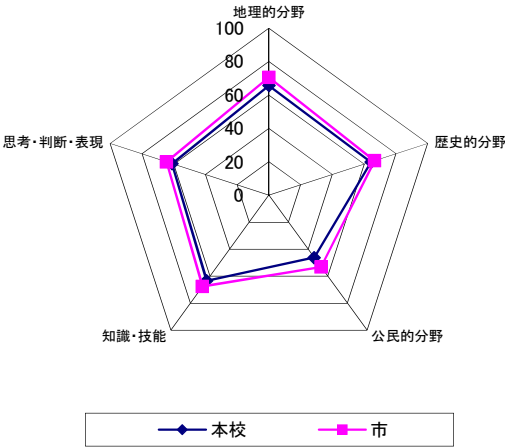
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	市の平均を0.9ポイント上回っている。 ○「助動詞について理解している」の問題では、市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。 ●「小学校で学習した漢字を正しく書いている」の問題では、市の平均正答率を3問中2問、3.1～5.4ポイント下回っている。漢字の下記に苦手意識を持つ生徒がいる。	・漢字練習帳を十分に活用し、定期的に小テストを行い、漢字の読み書きの習得をさせる。また、漢字テストなどの解き直しをさせ、繰り返し学習させることで確実な定着を図っていく。 ・文法や語句に関する事項については、『国語便覧』などの資料集を用いて、授業中や家庭学習として適宜取り上げ、知識量を増やしていく。
情報の扱い方にに関する事項	市の平均を4.4ポイント下回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、理論の展開の仕方を捉えている」の問題では、市の平均正答率を0.1ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」の問題では、市の平均正答率を8.8ポイント下回っている。	・情報と情報の関係についての理解を助けるために、図や絵、記号などを使って整理し複雑な関係を把握したり、自分の思考を確認したりする授業を適宜行う。 ・目的や場面に応じて、実際の社会生活の中から情報を集め、様々な資料から自分の考えを分かりやすく伝える文章を書く練習を取り入れていく。
我が国の言語文化にに関する事項	市の平均を1.8ポイント下回っている。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」の問題では市の平均正答率を1.8ポイント下回っている。	・古典の授業では、ペアやグループなどいろいろな形態で音読を繰り返し行い、歴史的仮名遣いの読みや古典特有の文末表現に慣れさせる。また、わが国で長く親しまれている古典の一節を暗唱させるなどして古典に親しませる機会を設ける。
話すこと・聞くこと	市の平均を6.3ポイント下回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」の問題では市の平均正答率を7.4ポイント下回っている。	・グループやペアでの話し合い活動の機会を多く設け、場の状況や相手の反応に応じて言葉を選ぶなどして、自分の考えを分かりやすく伝える工夫をしていくよう指導する。 ・聞き手としては、話の内容に興味を持ち、どのような立場に立ち、何を聞こうとするのかを意識させていく。
書くこと	市の平均を1.8ポイント下回っている。 ○「自分の考えを明確にして書いている」の問題では、市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」の問題では、市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。	・授業の中で、様々な場面で自分の考えを書く機会を増やしたり、いろいろな種類の文章に触れさせたりすることで、書くことへの抵抗を減らしていく。また、表現の仕方を考えたり資料(情報)を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫した書き方を学ばせていく。
読むこと	市の平均を3.5ポイント下回っている。 ○「物語の展開の仕方を捉えている」の問題では、市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●「文章の構成や論理の展開について評価している」の問題では、市の平均正答率を7.3ポイント下回っている。	・普段から、授業に関連した図書を紹介するなど様々な種類の図書に触れさせ、書き手の表現の仕方を評価することで、自分が文章を書く際にも役立てるよう指導する。 ・様々な文章を読むことを通して、理解したことや評価したことなどを結びつけて自分の考えを広げたり深めたりできることを学ばせていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.6	70.5	62.1
	歴史的分野	64.3	66.6	57.8
	公民的分野	46.3	53.3	45.2
観点別	知識・技能	63.4	67.6	59.2
	思考・判断・表現	61.0	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

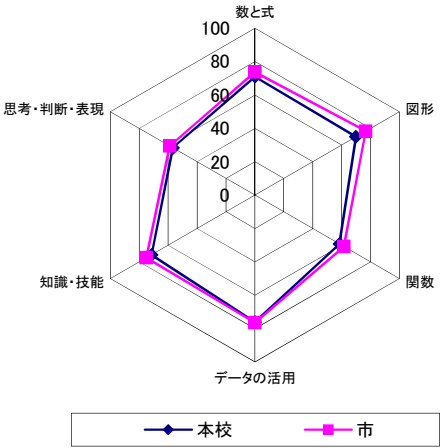
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均正答率を、4.9ポイント下回っている。 ○「さまざまな宗教について、宗教の特色についての理解をもとに判断する」問題で、市の平均正答率を4.0ポイント上回った。 ●「中国・四国地方の地域の活性化の取り組み（地域おこし）の理解」を問う問題で、市の平均正答率を12.0ポイント下回った。	・小テストを継続して実施し、基礎的・基本的な知識を定着させる。 ・地域の特色を地域的特殊性と一般的共通性の視点からとらえることができるよう授業を工夫していく。 ・地域の活性化の取り組みについては、身近な地域(宇都宮)の具体例などと照らして学習させ、興味関心を高めさせるようにしていく。
歴史的分野	市の平均正答率を、2.3ポイント下回っている。 ○江戸時代における「開国による日本社会への影響について、複数の資料をもとに判断する」問題で、市の平均正答率を、3.0ポイント上回った。 ●「江戸時代の大坂の蔵屋敷が集中していた地域について、資料をもとに判断する」問題で、市の平均正答率を、5.8ポイント下回った。	・小テストを継続して実施し、基礎的・基本的な知識を定着させる。 ・歴史的事象が、歴史の大きな流れのなかでそれらがどのように関連しているのかについて理解を深めることができるよう授業を工夫していく。 ・資料をもとに判断する力の育成については、授業の中で、資料を積極的に活用し、資料に基づいて考察する活動を増やしていく。
公民的分野	市の平均正答率を、7.0ポイント下回っている。 ●「公共の福祉についての理解」を問う問題で、市の平均正答率を、10.9ポイント下回った。 ●「さまざまな新しい人権が認められるようになった背景について、考察し表現している」かを問う問題で、市の平均正答率を、10.2ポイント下回った。	・小テストを継続して実施し、基礎的・基本的な知識をさせ定着する。 ・公民的分野においては、マスコミ等で報道されている話題を取り上げ、現在の生活に結び付けて考えさせるよう授業を工夫していく。 ・新しい人権については、身近な生活における具体的な場面と関連させて考えさせる活動を多く取り入れていくとともに、社会の変化に伴って人権に関する新たな課題が生じてきていること気づかせていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.0	73.8	71.4
	図形	69.9	76.7	67.9
	関数	58.5	61.6	52.2
	データの活用	76.1	76.4	65.4
観点別	知識・技能	71.5	75.2	69.9
	思考・判断・表現	56.7	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

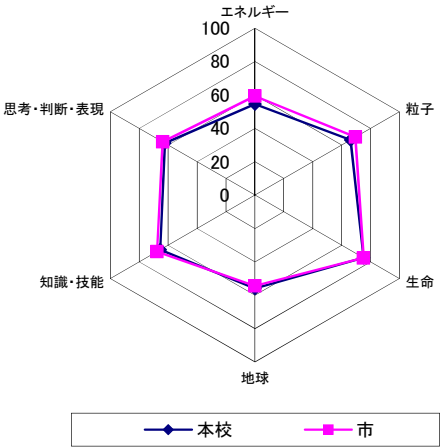
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均よりも2.8ポイント下回っている。 ○平方根の単元の正答率は、市よりも上回っている。 また、方程式の立式においては、市よりも7.1ポイント上回っている。 ●連立方程式の解が問題に適しているか理由を説明する問題の正答率が、市よりも6.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算問題の正答率は、市と同程度である。引き続き、計算の反復練習をさせ、技能の定着を図る。 ・解答が問題に適するかどうか判断をする問題演習を行う。 連立方程式の文章問題の場合、解答が適している場合が多いため、様々な問題を解くことで、解答の吟味についての理解を深めさせる。
図形	市の平均より6.8ポイント下回っている。 ○ほとんどの問題において参考値を上回っている。 ●平行線の性質を利用した角の求め方や作図など、基本的な問題の正答率が、市の平均を大きく下回っている。	・1年次で学習する図形の移動や、2年次で学習する図形の性質を利用した問題の正答率が低い。学習した直後の理解度は高かったため、学習の定着が図られていないと考えられる。3学年次においても、過去の学習内容の問題演習を通して、定着を図る。 ・作図(角の二等分線)については、作図の方法は合っているが、指定された箇所ではない角の二等分線をしている生徒もあり、問題に適した解答をするよう指導を丁寧に行う。
関数	市の平均より3.1ポイント下回っている。 ○反比例の関係と式の正答率は市よりも上回っている。 ●ほとんどの問題において正答率が市よりも下回っている。特に一次関数の変化の割合を求める問題や、関数の対称性を利用して座標を求める問題の正答率が、特に低い。	・関数 $y=ax^2$ がy軸で対称であることを利用して座標を求める問題の正答率が低い。図形領域に関連した内容であるため、領域を関連させた指導を丁寧に行う。 ・数学的な用語の意味を理解できていない生徒が多いと思われる結果となった。基礎的な内容の理解を深めるために、授業内で丁寧に扱っていく。
データの活用	市の平均より0.3ポイント下回っている。 ○ヒストグラムから特徴を読み取って説明する問題や、確率の問題において市の正答率よりも高い。 ●階級の度数を答える問題の正答率が、市よりも1.5ポイント下回っている。	・説明する問題では正答率が77.7%と市よりも0.3ポイント、参考値よりも9.7ポイント上回っている。他の2つの領域(数と式、関数)の記述に比べ正答率が高い。自分の考えを説明する問題については、領域全体で問われる内容であるため、授業内で自分の考えを適切に表現する練習を繰り返し行う。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.6	59.3	62.1
	粒子	66.3	69.5	66.8
	生命	75.1	75.2	70.9
	地球	55.9	54.4	52.0
観点別	知識・技能	65.4	67.7	67.2
	思考・判断・表現	62.3	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

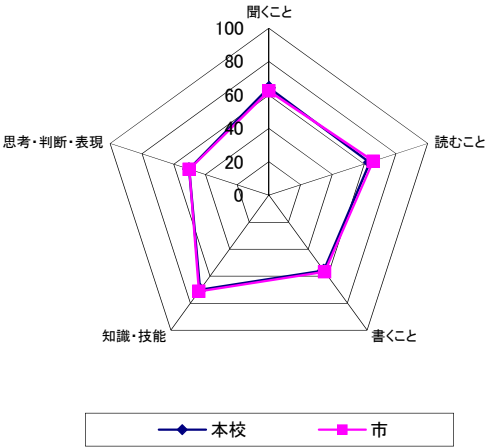
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	市の平均正答率を4.7ポイント下回っている。 ○「紙テープの打点の間隔の変化から、速さの変化を考える」問題では、8割を超える正答率であった。 ●「磁力線についての理解」を問う問題では、市の平均を6.7ポイント下回った。	・磁力線や、電流が作る磁界の様子など、目に見えない事物・現象に対する理解が不足している。ICT教材やモデルを活用し、視覚的にイメージさせることで定着を図っていく。
粒子	市の平均正答率を3.2ポイント下回っている。 ○「分解についての理解」を問う問題では、9割の正答率であった。 ○「金属の性質を調べる方法を指摘する」問題では、市の平均を5.3ポイント上回った。 ●「電離についての理解」を問う問題では、市の平均を9.9ポイント下回った。	・密度の求め方や物質の性質についての知識は定着しているが、化学変化やイオンについての理解に課題が見られる。小テストなどを繰り返し行い、化学式やイオン式を習得できるようにしていく。
生命	市の平均正答率を0.1ポイント下回っている。 ○「白血球についての理解」を問う問題では、市の平均を5ポイント上回った。 ○「ドクダミとタンポポの生える条件を推測する」問題では、9割の正答率であった。 ●「受精についての理解」を問う問題では、市の平均を6ポイント下回った。	・身近な事物・現象に関する理解は高いため、色々なものをより身近に感じられるように題材として取り扱っていく。 ・生命の連続性については、重要語句の確認に加え、発展的な問題にも取り組んでいく。
地球	市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。 ○「スケッチから火成岩を推測する」問題では、市の平均を8.6ポイント上回った。 ●「水がくみ上げられた理由を記述する」問題では、14.8ポイントの正答率であった。	・地球分野に関する基礎的な知識は定着している一方で、思考を伴う活用問題に対する正答率が非常に低かった。習得した知識・技能を用いて課題解決を行うなど、深い学びにつなげる場面を授業の中で設定していく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	64.3	62.4	59.8
	読むこと	63.5	65.7	58.5
	書くこと	55.9	56.8	43.5
観点別	知識・技能	70.1	71.2	65.3
	思考・判断・表現	50.3	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○「対話を聞き、その概要を捉えて適切に応答している。」の平均正答率は、市の正答率よりも3.85ポイント、全国の正答率よりも11.3ポイント上回っている。 ●「日常的な話題について聞き、要点を捉えている英文を聞き、その内容を理解している。」の正答率は、市の正答率を3.2ポイント下回っている。	・授業における教師の英語の使用量やデジタル教科書の活用を増やし、日常的に英語をインプットするようにしていく。また、英語の音のつながりや変化を意識した音読の機会を多く設けていくことで、リスニング能力を育成していく。
読むこと	市の平均正答率を2.2ポイント下回っている。 ○「発表のための原稿を読み、概要を捉えて適切なスライドを選んでいる。」の正答率は市の正答率よりも2.0ポイント上回っている。 ●「対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(現在完了・副詞的用法の不定詞・最上級)」の正答率は、いずれも市の正答率を2.5～9.7ポイント程度下回っている。	・教科書の内容を読み取る際、全体を大まかに捉えてから詳細を見ていくなど、段階的な指導をしていく。また、長い英文にも対応できるように、文法に気をつけながら、丁寧に訳を確認するなどメリハリをもって指導していく。英語を英語のまま読んで理解することができるよう、意味のまとまりを意識した読解練習や音読練習を習慣づけていく。
書くこと	市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。 ○「場面に応じて書く英作文」の正答率は、いずれも市の正答率を1～4ポイント程度上回っている。 ●「3文以上の英作文」の正答率は、市の正答率を2.1～5.1ポイント程度下回っている。	・日本語と英語のしくみの違いを理解し、伝えたいことを既習事項の文法等を用いて、いかに言葉や文章に表すかを考え、英作文作成などの学習活動を多く取り入れていく。また、ALTに生徒が書いた英文を添削してもらい機会を多く設けていく。

宇都宮市立陽西中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「わかる授業」の展開、授業力の向上	・授業の受け方に関するルールを具体的に決め、学校全体で取り組んでいくようにする。 ・基礎的・基本的な内容を繰り返し行い、分かりやすい授業作りを心がけ、授業力の向上に努める。 ・1人1台端末を有効に活用し、より具体的に分かりやすい授業の展開を工夫する。 ・質問学習やレベルアップ学習、夏休み学習サポートを行い、個別に学習をサポートする機会を設けている。	・「学校の授業がどの程度分かりますか」との設問では、本校の肯定割合は、各学年とも宇都宮市の肯定割合を下回った。1・3年は8割を超えたが、(1年 81.7. 3年 80.9)、2年生はわずかに届かなかった(2年 72.3)。 ・「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」との設問では、各学年とも宇都宮市の肯定割合を下回ったが、8割を超えていた。(1年 91.8 2年 90.4 3年 84.4)
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・年度の始めに、家庭学習の仕方や自主学習ノートの取組について資料を配布し、各担任が説明する。 ・自主学習ノートやプリントは毎日提出することを原則とし、学年でチェックを行い、その後の指導にも活かしていく。 ・授業で習ったことを復習できるような家庭学習用の補充プリントを配付する。	・「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している」との設問では、各学年とも宇都宮市の肯定割合を下回り、4～6割程度であった。(1年 53.1 2年 42.2 3年 62.4) ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」との設問では、各学年とも宇都宮市の肯定割合を下回った。(1年 58.5 2年 51.8 3年 64.5)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・授業の受け方について学校全体で共通理解を図り、日々の授業で根気よく指導行う。
- ・生徒が学びに向かうことができるように、知的好奇心を高める授業の工夫を行う。
- ・1人1台端末を効果的に活用して、視覚・聴覚にも訴える、より分かりやすい授業を工夫していく。
- ・学校図書館司書と連携し、読み聞かせやブックトークを行い、視野を広げていけるようにする。
- ・年度初めに、陽西地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の取組について様々な場面を通して指導を行い、家庭学習の習慣化を図る。
- ・各担任が自主学習の取り組みについて日々個別にアドバイスをを行い、学習の量と質をあげていく。
- ・各教科の授業で家庭学習で取り組むとよいところを助言し、テスト等でも勉強したことが出題されるように考慮する。